

■賀川玄悦(子女) 医家。賀川流の産術の祖。初めて産鉤を使用して母体を救い、正常胎位の発見、「産論」刊行など貢献大。

かがわけんえつ

・・・・・・1700＝ 近江国彦根で、藩士三浦家の三男に生まれる。

・・・・・・1706＝ 6歳：母が死去したため、母の実家賀川家に引き取られ、

徳川綱吉没・1709＝ 9歳：

農業を教えられるも興味が持てず、

徳川吉宗將軍1716＝16歳：

御蔭参流行・1718＝18歳：

密かに鍼灸按摩を学んで、

優れた技量を発揮するようになり、

・・・・・・1727＝27歳：

医術を学ぼうと上京、古銅鉄器を売買をし、按摩業を営んで、苦学するうち、

享保大飢饉・1732＝32歳：

独自の「賀川流按針十二法」を考案する一方、古医学の湯剤の方についても学び、

・・・・・・1736＝36歳：

ツツ船出没始 1739＝39歳：\*隣家の女性が難産に苦しむのを見て、助けるべく知恵を絞り、商売の古銅鉄器の秤の鉤を使うことを思いつき、既に死亡していた胎児を取り出し、母体を救うことに成功、日本初の産科手術「回生術」となる。

非難されたり異端視されるも、腕前の評判が広がり、西洋医学が入ってきて確認されるなどして、賀川流産術の祖となって行く。

徳川吉宗隠居1745＝45歳：

徳川吉宗没・1751＝51歳：この頃、アメリカの産科医ウィリアム・スメリーが唱え始めたのとは全く独立に、\*胎児は子宮内で頭を下にしていること(正常位)を発見、のち「産論」に記す。

山脇東洋解剖1754＝54歳：

さらに、回生術をはじめ十一種の治術を発見・創案し、

宝暦事件・・1758＝58歳：この年入門してきた出羽国の医者長の長男の才能を認めて、婿養子玄迪とする。

大岡忠光没・1760＝60歳：

・・・・・・1762＝62歳：この年、妻を失うと、過去自らが実施した産術についての研究記録をまとめることに没頭し、

・・・・・・1763＝63歳：

漢文を綴るにあたっては、若き皆川淇園の助けも得て、

錦絵始・・1765＝65歳：

\*「産論」として刊行。以後、何度も再版され、この中で、古来広く慣用されてきた産椅や腹帯の害を力説して、旧来の悪習の廃止を唱えた。

久留米藩工事1768＝68歳：

徳島藩儒合田如玉の縁で、藩主が寵愛していた芸妓の母親を治療したりして、\*徳島藩医に招聘されるも、高齢のため辞退し、玄迪を推薦して、

田沼意次老中1772＝72歳：

黄表紙始・・1775＝75歳：

この年、玄迪が増補した「産論翼」が現代まで伝わるものとなった。

・・・・・・1777＝77歳：

没した。

胎児が子宮内で頭を下にしていることについては、杉田玄白もスメリーの「解剖図譜」によって、玄悦の説が正しかったことを知ったという。